



川西町・三宅町式下中学校  
組合立式下中学校

「学校通信」 Believe (ビリーブ)

—令和2年度第14号—

令和2年10月26日発行 文責 中本克広



校門横掲示板 美術部のみなさんの作品 体育大会前のこの季節にぴったりの雰囲気が出ています。校内に彩りを添える制作をしてくれて有難う。

## JOCジュニアオリンピックカップ全国中学生陸上競技大会2020出場



10月18日(日)、横浜の日産スタジアムで行われた標記全国大会に、本校陸上競技部の3年藤田愛花さん、吉田美優さん、2年池崎愛菜さん、吉田小晏さん、1年梅本有利さん、田中あかりさんの6名が、4×100mリレーで栄えある出場を果たしてくれました。これは、8月31日に行われた予選記録会で、奈良県1位の記録を打ち立てて、県代表としての出場が実現したものです。

当日は、予選1組7レーンで登場し、気温の低いコンディションの中、ベストタイムに0.01秒と迫る50秒37の好記録をおさめ、総合順位も45チーム中22位と大健闘しました。何よりもチームメンバーの信頼関係のバトンをしっかりとつないでくれたことを、学校としてもとても名誉なこととうれしく思います。この6名の本校や奈良県を代表しての健闘に大きな拍手を贈ります。



## PTA高校説明会が開催されました。

10月17日（土）、延べ約80人の保護者様・生徒のみなさんの参加を得て、「PTA高校説明会」が実現しました。感染症対策の都合上、広く座席間隔がとれるよう、川西町のけやきホールをお借りしての開催となりました。



磯城野高校、郡山高校、奈良大学附属高校、県立国際高校、桜井高校、近畿大学附属高校から校長先生や教頭先生、入試広報担当の先生にお越しいただき、順に説明が行われ、それぞれの学校の特色について知ることができました。参加の方々は終始熱心にメモを取るなどされ、有意義な会となりました。運営に御協力いただきましたPTA本部、進路対策部の皆様には、準備から本番の運営、最後のかたづけまで、誠心誠意関わっていただきましたこと、深く感謝申し上げます。

## 3年生保護者様対象進路総合説明会が開催されました。

10月22日（木）14時30分～、川西文化会館コスモスホールにて、「進路総合説明会」を行いました。多数出席いただき有難うございました。今後、お子様の進路について、十分に相談をさせていただきたく、疑問点や相談事はお気軽に学級担任までお知らせください。なお、この日の説明資料は、本校ホームページにアップしていますので、1、2年生の保護者の方も御参考になさってください。

さて、9月30日には、公立高校の入学者募集人員が発表され、受検もいよいよ本格化してきました。

全日制課程の募集人員は、昨年7528人のところ、今年は7088人と、440人の減になっています。主なところでは、西の京高校（昨年320人）と大宇陀高校（昨年120人）の分が、今年度は募集がありません。近いところでは、法隆寺国際高校の普通科が昨年160人から今年度200人と、定員が40人増えています。

大淀高校と吉野高校がいっしょになって、新しく奈良南高校が開校しますが、昨年度は両校を足して定員271人のところ、今年は191人と、80人の減になっています。

奈良朱雀が奈良商工、高円が高円芸術、奈良情報商業が奈良県立商業高校と変わるなど、新しい高校名への変更もあります。参考までにお知りおきください。

生徒のみなさんは、体育大会をはじめ、今後行われる一つ一つの行事を大事にしながら、確実な一歩を歩んでいってほしいと思います。

## 連句を通して人と人とのつながりを

\*連句<sup>れんく</sup>=五・七・五の句と七・七の句を、  
交互に続けていく詩の形式。

第1学年国語教科書に、「空を見上げて」という随筆が出てきます。筆者の山中勉さんは、東日本大震災の後、大きな被害を受け、つらい思いを抱える宮城県女川町の中学生たちのもとを訪ね、五・七・五の形に自分の気持ちを表現することをすすめられました。そして、連句を通じて他校の人たちとの交流をもつことで、希望をもって生きていってほしいという願いから、その取組をコーディネートしてこられました。そのときの連句を通してできた交流の証（全作品）をメモリーに収録し、ロケットに載せて、「国際宇宙ステーション内実験棟きぼう」に届けられ、大切に保管されています。

現在、山中さんは、『地球人のあいさつ』を交わそう」として、厳しい状況の中で生活する国内外の中学生が連句（五・七・五と七・七のやりとり）でつながる活動を企画しておられます。2学期には、本校の1年生も、国内外の同年代の生徒のみなさん（星友）との連句を通じての交流に取り組んでいます。この企画には、9カ国50余の学校が参加しているそうです。本校の1年生は、他校の生徒がつくった五・七・五の句を受けて、七・七を考えました。その一部を紹介します。

気づいたよ仲間と過ごす大切さ（滋賀・中一）

なんとかたえて深まる絆（本校一年生）

画面越しみんなの心重なり合う（南アフリカ共和国・日本人学校）

大切なのはみんなの気持ち（本校一年生）

会いたいと何度も思う時があった（奈良・中一）

今乗り切れればきっと会えるよ（本校一年生）

考えてその判断が皆救う（アメリカ・日本語補習学校）

未来のためにこれから先も（本校一年生）

終わったら笑顔の花が咲き誇る（東京・中一）

守り続けよ笑顔のつぼみ（本校一年生）

あと少し頑張る先に未来の道（東京・中一）

一歩進むぞ俺たちみんな（本校一年生）

大丈夫「普通」はきっとすぐそこに（埼玉・中一）

待っているからあきらめないで（本校一年生）

心の手つないでつないで離さない (埼玉・中一)

ほら前向けば希望の光 (本校一年生)

離れても友との心変わらない (奈良・中二)

もっと深まる友情の花 (本校一年生)

大丈夫いつかはきっと快晴だ (埼玉・中一)

手を取り合ってみんなつながる (本校一年生)

絶対に負けるはずない私達 (埼玉・中一)

どんな壁でもかかってこいや (本校一年生)

気づけたよ君と笑い合う特別感 (三重・中一)

君の笑顔で安心できる (本校一年生)

僕はいましあわせなのかどうだろう (アメリカ・日本語補習学校)

生きれるだけでともしあわせ (本校一年生)

ひとりじゃないみんなと一緒に乗り越えよう (アメリカ・中学生)

越えた先には輝く世界 (本校一年生)

医師たちは今この時期も戦っている (三重・中一)

最前線で向き合いながら (本校一年生)

星たちは希望の数だけあるんだよ (京都・中一)

未来に向けて輝き放つ (本校一年生)

他者の思いに共感し、読み取り、自分の言葉で応え、エールを贈る、そういう内容の作品がたくさんありました。

本校1年生の作品については、山中勉さんのもとに届け、その後の取り扱いについては、山中さんに委ねますことを御了承ください。作品と校名とペンネームのみ、光村図書のホームページ上に紹介される予定です。「空を見上げてみよう 第11回 みつむら」でインターネット検索をしていただきますと、山中さんからのメッセージ等を御覧いただけますので、御参照ください。

10月24日(土)夜8時頃、南の空を見上げると、月をはさんで左手に明るい火星が、右手に土星と木星が見えました。生徒のみなさん、家庭での勉強の合間に、空を見上げて、元気・勇気・希望を胸に吸い込んで、気分転換を図りましょう。